

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501084		
法人名	有限会社 北海道ふれあいの家		
事業所名	グループホーム ふれあいの家・月寒		
所在地	札幌市豊平区福住1条1丁目9番24号		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 31 日	評価結果市町村受理日	平成27年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170501084-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は地下鉄駅に近く閑静な住宅街にあり、古民家改造の広い庭のある落ち着いた佇まいの一軒家です。近隣には商店、病院、大きなスーパー等があり利便性に恵まれております。時には散歩がてらの買物、ランチ、お茶などを取り入れながら日常生活を楽しみ、又庭の手入れ、音楽療法、誕生会、節目の行事など、利用者様の持っている能力を引き出せる場が多々あり残存能力の維持向上に努めております。町内会、近隣の皆様とも仲良く、散歩や買い物に出掛けた際の挨拶、会話があり町内会行事の盆踊り、防災訓練、焼き肉会、お祭り、清掃日等には、わざわざの声掛けを頂くこともありホーム全体で地域に何かれと参加させて頂いております。運営推進委員会には、地域包括センターをはじめ近隣住民、家族が出席され運営、防災防犯、利用者状況、事例等話し合われております。地域住民の方々と交流し「思いやりの心」を理念とし利用者様の心に寄り添いながら住み慣れた地域の中で安心して暮らせるよう支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 12 月 4 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【利用者一人ひとりに寄り添った思いやりのケアサービス】
ホーム理念の「思いやりの心」を遵守しながら買い物やドライブなどの頻繁な外出、行事食や外食など変化に富んだ食事、音楽療法など身体機能維持に努めながら利用者一人ひとりに寄り添った質の高いケアサービスを実施しています。

【住民との積極的な交流による地域との連携】
職員が役員を務めている町内会の各種行事への参加協力、避難訓練及びクリスマス食事会や庭でのバーベキューなどへの住民参加、挨拶交換や菜園野菜の提供等と周辺住民との日常的な交流によって地域と一体感のあるホームです。

【小規模ながらも家庭的で暖かい雰囲気のあるホーム】
交通と買い物に便利な住宅街に位置し、札幌市最初の民間グループホーム「ふれあいの家」は、住宅改造の小規模ながらも職員間や利用者との良好な関係及と暖かみと優しさのあるケアにより家庭的雰囲気居心地の良い住処となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
				職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
				通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
				運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
				職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	
				職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
				職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
				1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない	
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「思いやりの心」を念頭に利用者への介護職員間の「和」を持って実践につなげています。常に基本的な考えに立ち戻る姿勢を心がけております	利用者を思いやり、安心して過ごして頂く終の棲家としての役割を持つホーム理念を職員は理解し、日常業務において理念を意識しながら利用者へのケアサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方々とのふれあいを大事にしています。町内の花壇の水やり、盆踊り等に参加。バーベキュー会にもお誘いを受け参加させて頂きました。	ホーム長が役員経験もある町内会の諸行事へ利用者も参加しています。ホームの避難訓練やクリスマス食事会などへの住民参加、周辺商店の買い物などによる顔なじみの関係や周辺住民との日常の挨拶交換など地域と一体感のある交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献	町内会に加入しており、地域の方の紹介でボランティアを受け入れ、人材育成の貢献として実習生の受け入れをしています。地域の人から認知症の相談があった時アドバイス等をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて状況報告をしている。様々な意見を頂き運営サービスに活かしています。	運営推進会議には民生委員、複数の町内会関係者や家族と殆どのホーム職員も出席しています。会議は報告事項と意見交換、講師による時宜に沿ったテーマの勉強会などもあり、会議結果をホーム運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・区の担当者と日頃から電話や窓口などで利用者、家族、運営の相談や連絡をしています。	相談事項や情報交換などを電話や書類提出のため市担当窓口訪問時に行っています。また、グループホーム関係の会議や研修会で市職員と接触の機会もあり、これらを通して行政との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会をしています。日中、玄関の施錠はせず、それとなく見守り安全を図っています。玄関入り口にモニターテレビを設置し安全確認しながら、自由な雰囲気大切にしています。	職員は外部研修会参加や内部の勉強会で身体拘束をしないケアを理解し、関連マニュアルも参考にしながら実践に取り組んでいます。日中は玄関施錠をしていません。センサーや鈴でホームの出入りが分かるようになっていきます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を設け職員間で勉強しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度的な知識は個々の学習で理解していると思われるが、研修会の機会が得られたら参加したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方、取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。状態の変化などにより、契約解除に至る場合は家族と相談し、その後の対応方針を含めて納得を得られるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族へ参加出席をお願いしています。複数の参加を得ており意見・要望を運営に反映させている。月1回の「ふれあいだより」を送付し生活状況の報告をしている。	職員は、ホームを来訪する家族と率直に話し合いをしています。来訪が無い家族には電話やお便りで利用者の様子を伝えています。家族からの要望等は申し送りや内部で検討し、速やかに対応するよう努めています。	毎月発行の「ふれあいだより」は好評ですが、さらに、利用者一人ひとりにホームでの様子を写真入りのお便りで提供すると家族は非常に喜び、感謝されますので、個人別お便りの作成についての検討を望みます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部会議、ミーティング以外にも日頃から意見・要望を聞くことができるよう環境づくりをしている。	ホーム長や管理者は、日常的に職員と自由に話し合いをしており、職員との食事会や個別諸相談会の機会もあります。さらに内部会議等で職員から意見や提案を聞き、内容に応じてホーム運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則等を整備し処遇改善に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合った研修に参加、研修で勉強したことを内部会議、ミーティング等で発表し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、グループホーム連絡会へ参加し、意見交換、活動の情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で生活を把握するように努め、本人の言葉や表情を観察し要望や不安等を感じとるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談により会話や声・表情から不安や要望等を理解するように努め、事業所としてどのように対応できるか話し合いをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の現状を理解して、入所する事で本人・家族が安心して生活できるよう話し合う。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんは人生の先輩ですので、普段から利用者さんに教えてもらう事があり又そういう事が多く持つよう工夫や声掛けをしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の心に寄り添いながら本人を共に支えるために家族の方と同じような思いで支援するよう心掛けています。日常の様子など面会時など報告をし、今後の支援に理解同意を頂くようにしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人が来訪した時には居心地良く過ごして頂く雰囲気作りを心掛けています。馴染みの美容室にも継続し交友出来るよう努めている。	美容室や買い物など馴染みの場所への外出希望には職員の状況に応じて支援し、墓参りや帰省なども家族と連絡をとりながら、利用者の希望に沿うよう支援しています。家族や知人が来訪の際もお茶やおやつを提供してゆっくりと過ごして頂くよう配慮しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分で日々変動はありますが、表情や性格を見極めながら良い関係が作れるよう声掛けや見守り、時には職員も間に入る心配りをしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方も今まで通りの関係性を保ち、必要に応じ相談や支援するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や行動の様子等から本人の思いや望みを汲み取りに努め、職員間での情報交換を密にとり、本人の思いがかなうように支援していく。	利用者との日々の関わりから思いや意向を把握しています。把握困難な時は利用者の様子や会話、家族からの情報、ケアプラン記録内容から職員間で相談して利用者の意向に沿うよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境や暮らしの様子等本人や家族から小さい事柄でも情報を伝えてもらい、それを蓄積しながら本人への理解を一層深めて行くように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝と夕のミーティングや日常生活の中で一人一人の心身状態を職員間で共有し、その人にあわせた支援をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の支援の中から職員間での意見交換やモニタリングを行ない、介護計画の見直しに活かしています。	職員は、日常のケアサービスから利用者の状態をモニタリングして把握し、日々のケース記録も参考に内部会議でプラン変更の有無を検討しています。プラン見直しの際は家族の意向確認と主治医との相談も行い、変更したプランを全職員が共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や表情・本人の言葉・排泄回数及び介助・食事や水分摂取の量等こべつの介護記録に記入し、いつでも職員が確認できる様にしている。又、それを元に実践方法を変更したり、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望での外出はされています。誕生会やクリスマス会の行事には、家族も招待し一緒に過ごす時間をとっています。急な要望にも臨機応変に対応させていただいております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民や地域の人達と共存した生活を送る為の協働はしています。町内会行事の盆踊り、焼き肉会、花壇の水やり、ゴミ拾い、資源回収や道路の清掃等に参加し地域の方々との交流を深めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得された医療機関を確保している。4週に一度の主治医の訪問診療や看護師による健康チェック、又異変時の緊急受診には、家族の了解、報告し通院や医療機関への受診を支援しています。	4週間毎の協力医療機関による訪問診療と毎週提携看護師による健康チェックがあります。利用者の受診外出には家族に連絡して職員も共に付き添い、利用者の状態を把握してケアサービスに反映させています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理等細かい変化の申し送りや記録をし内部会議を通して利用者一人ひとりの状態をカンファレンスし適切な看護を受けられるように支援しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、時折様子を見に訪れます。医療機関への情報提供及び担当ワーカーや家族との情報交換を行っております。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の終末期について事業所として対応出来る最大限のケアについて、利用開始時や随時に本人や家族に十分な説明をしています。主治医と連携を図り対応方針を職員や家族と共有している。	ホームでの看取りは困難ですが、入居時に重度化の指針を家族に説明して同意書を頂いています。さらに、利用者の状態に応じて再度、家族や主治医と今後の具体的支援方法を相談しており、職員も含めてチーム対応の準備を整えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防隊員による救命救急法の研修を通じて応急手当を行なえる学習をしています。又看護師と各利用者に関わった急変事の対応について、話し合っています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと利用者を含めた避難訓練を年2回実施するとともに毎月自主訓練を行なっています。災害については、地域住民の訓練参加や緊急通報の協力が得られ地域との協力体制を強化している。	消防署の指導のもと年2回の避難訓練と毎月の自主訓練及び点検表により暖房器具やコンセント等を毎日チェックしています。避難訓練には住民の参加や緊急連絡網など地域の協力もあります。防災グッズも準備して災害に備えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合った言葉づかいや本人の希望を兼ねた呼び方を行っています。居室への出入りは声かけをして了解を得るようにしています。	職員は接遇関連の研修を受講し、内部会議等においても利用者の人格尊重と誇りを損ねない言葉かけやケアのあり方を確認し、実践しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から本人の思いを引き出し声かけをしている。誕生日会、外食等企画する際、希望を聞き意向に沿えるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の表情や心身の状態を見ながら職員間で相談し、状態に合わせた支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡に向かい身だしなみを整えている。行事のある時はメイクもしている。七夕や正月には着物を着たり、定期的に訪問美容室を利用している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが見極めて声かけをして、調理の下準備や片付けをしている。それぞれある程度役割ができており楽しそうに手伝って下さっている。	食材を利用者と職員が共に買いに出かけ、職員による献立は利用者の嗜好等にも配慮しています。一部利用者は食事関連の作業を手伝い、職員と共に食事を取っています。また、外食や季節行事用献立などもあり、変化のある食事を利用者は楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や食べる量を把握し調整している。食べやすいように副食をカットをしている。水分摂取量が少ない利用者へ意識的に声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。歯磨き粉の他、糸ようじや洗口液を使用されている方もおられる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のプライドに配慮した声かけをし、トイレ誘導や排泄介助をしている。時間がかかっても介助を要する部分のみ支援し、できるだけ本人が自立できるよう見守りをしている。	利用者一人ひとりの排泄状況をケース記録に記載して把握し、利用者の様子や時間間隔を勘案しながらトイレ誘導の支援をしています。下着類もおむつやリハビリパンツに頼らず、可能な限り布パンツを使用するなど、排泄の自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のリズムをつかむようにしており、食事メニューを考え工夫している。又、水分摂取や軽い運動をされている。(一覧の記録に時間、量、形態等を記し個々のリズムを捉えている。)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様間での話し合いで順番を決められている。利用者の希望、体調に合わせて対応。拒否時は声かけ等工夫し対応する。	入浴は、火曜日と金曜日の日中に実施し、利用者全員が週2回の入浴を実践しています。入浴を嫌がる利用者には話しかけや担当者あるいは時間の変更、清拭等に対応し、身体の清潔を維持しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠されるまで見守る。安眠できるように寝具等にも気を配る。寝つけない時は傾聴等して対応する。冬は希望者には湯たんぽを入れて上げてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用は利用者様の状態に合わせて服薬ゼリー等使用することもあり、飲み込みまで確認する。観察も心がけ医師への報告につなげる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調や気分に合わせて居間で職員も一緒に会話をしながら、好みの飲み物を頂いたり、たまには昔懐かしい遊びを入れたり洗濯物を整理したり、花の手入れ、買い物、料理等コミュニケーションを取りながら個々の様子に気を配り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の健康状態や希望に合わせ外食、買物、町内活動への参加、ドライブへ、徒歩や車等を使用し、外出を積極的に楽しんでいただいている。外食等は本人の希望を聞き要望に沿うよう実践している。	利用者は周辺散歩や食材の買い出し、町内会行事等に出かけていますが、車両を利用して花見、果物狩り、ファミレスでの外食等に頻繁に外出しています。また、庭でのバーベキューや菜園の手伝いなどホーム内にこもらない暮らしの支援に努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭出納帳を用意、記帳しホームで管理している。本人の希望がある時は同行し買物支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への手紙、電話を希望時に自由にできるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある物を飾ったり、大きなカレンダーで日付がわかるようにしたり、一般家庭に近い安らげる雰囲気作りを心がけている。温・湿度等へも配慮し快適に過ごせるようにしている。夜間のトイレにはスムーズに行けるよう照明を調整したり、足元危なくないよう配慮しています。	住宅改造型の2階建ての小規模なホームですが、居間兼食堂は小人数に十分なスペースが有り、広い開口部から庭の木々や花、菜園など自然の景観が楽しめます。居間兼食堂には多くの鉢植えや利用者の手づくり作品、季節の飾りがあって親しみのある家庭的雰囲気があり、利用者は日中をここでんびりと過ごしています。浴室やトイレ、玄関ホールなども利用し易い構造で清掃も行き届いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二階ホールにテーブルセットを用意し(夏季には庭にも)気の向いた時に花を見たり、会話を楽しんだりできるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に収納棚やタンスがあり整理整頓ができるようになっている。個々の趣味に合わせ好きな物を飾り楽しまれている。	居室形態は異なりますが全て十分な広さと明るさがあり、袋棚とベットが設置されています。利用者は、馴染みの物品や家具などを好きなように配置し、写真や絵などを飾りながら居心地良く暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力の弱い方や足の不自由な方も安心して移動できるように、手摺りや照明をつける等工夫している。			